

基本事業コード	13060001	担当課所名	市立病院管理課
基本事業名	市立病院管理事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	3	温もりと安心のある「健康のまち」
	政策	2	安心できる医療のまちづくり
	施策	2	公的医療機関の充実
			総合振興計画 91 ページ

基本事業の概要	市立病院の施設設備、経営、人事管理をおこなうことにより、秩父地域の住民に対してより良い医療が提供できる環境をつくる。
---------	--

対象	秩父地域の住民
意図 (対象をどのようにしたいか)	(施設設備、経営、人事管理をおこなうことにより、)より良い医療が提供できる環境を整備したい。

基本事業指標	指標の算式	単位	25年度	評価年度(26年度)		28年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
医療収益に対する職員給与費の割合	職員給与費/医療収益×100	%	48.1	52.5以下	50.	52.5以下	黒字同規模病院平均値: 52.5%(H25決算)
医療収益に対する材料費の割合	医療材料費/医療収益×100	%	21.3	18.5	19.8	18.5	黒字同規模病院平均値: 18.5%(H25決算)
1床あたりの償却資産(建物)	(償却資産-減価償却累計額)/許可病床数	千円	14,000.	13,841.	10,742.	13,841以下	黒字同規模病院平均値: 13,841千円(H25決算)
整備不良による年間医療機器事故件数		件	0.	0.	0.	0.	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			26年度	単位	事務事業評価 28年度以降の 事業の方向性 コスト成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		25年度決算額	26年度決算額	27年度予算額	実績値(下段)			
01	市立病院内部管理事務	指標 医療収益に占める職員給与費の割合	52.5以下	%	B			
		470,906,962	569,688,230	645,397,000	50.	維持 拡充		
02	医療材料購入事務	指標 医療収益に占める材料費の割合	18.5	%	B		○	
		564,455,366	545,721,812	577,109,000	19.8	維持 拡充		
03	市立病院施設設備維持管理事業	指標 1床あたりの償却資産(建物)	13,841.	千円	C		◎	
		275,535,945	303,218,898	332,263,000	10,742.	維持 拡充		
04	医療機器等整備事業	指標 整備不良による年間医療機器事故件数	0.	件	B			
		188,417,186	330,918,423	220,421,000	0.	縮小 維持		
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円) 1,577,228,000 1,839,948,000

事業費の合計(円) (A) 1,499,315,459 1,749,547,363 1,775,190,000

財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	県支出金	2,887,000	3,994,000	3,150,000
	地方債	0	155,300,000	18,000,000
	その他特定	380,784,004	462,574,225	472,625,000
	一般財源	1,115,644,455	1,127,679,138	1,281,415,000

正規職員	業務量	173.00人	175.00人
	人件費(B)	1,233,287,175	1,408,347,325
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	38.70人	39.60人
	人件費	146,565,831	155,576,233

事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B) 2,732,602,634 3,157,894,688

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	x	C,B	B,C	C
	維持	x	B	A	x
	縮小	x	C	x	x
	休廃止	D	x	x	x
		皆減 縮小 維持 拡大			
					コスト投入の方向性

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題は無いのか？
基本事業指標の分析	医療収益に対する職員給与費の割合は黒字同規模病院の平均値よりも良いが、平成25年度の48.1%に比べ1.9ポイント上昇した。これは、給与減額の臨時特例措置が終了したことによる。医療収益に対する材料費の割合は平均値よりも高い傾向にある。詳細に分析すると医療材料費のうち薬品費分については黒字同規模病院の平均10.8に対して当院は9.0であり低い傾向にあるが、その他の医療材料費(投薬・注射薬以外の診療材料費や医療消耗備品費)が平均7.71に対して10.9であり高い。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標の目標値を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 秩父地域の住民に対してより良い医療を提供できる環境をつくるためには、人事管理、施設管理、医療材料等の用度管理、医療機器等の管理など多岐にわたるが、それぞれが必要な事業である。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 市直営の病院であるが秩父保健医療圏(1市4町)の二次救急医療体制を維持するため病院群輪番制の役割を担っている。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 枝番号03 市立病院施設設備維持管理事業を最重点化事業とした理由は、平成27年3月31日付け総務省自治財政局長から「公立病院改革の推進について」により、平成28年度までに新公立病院改革プランの策定を要請されていることから、その実施に向けて検討を進める必要があるため。また、枝番号02 医療材料購入事務を重点化事業とした理由は、医療収益に対する材料費の割合が、黒字同規模病院の平均値よりも高い傾向にあるため診療材料費や医療消耗備品費の節減に取り組む必要があるため。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	枝番号02 医療材料購入事務については、診療材料費(投薬・注射薬以外の診療材料費や医療消耗備品費)が高い原因を分析するとともに、同等品を他メーカー品へ切り替えることによる削減を更に進めていく。 枝番号01 市立病院内部管理事務については、医療スタッフの確保を図るため募集活動を強化する。 平成26年11月に医療スタッフの募集活動の際に活用するパンフレットを作成し県内の看護学校等を訪問し募集活動を行った。
短期的(1~2年以内)に実施可能な改善提案	枝番号01 市立病院内部管理事務については、多様な働き方ができるような仕組みを検討する。 枝番号02 医療材料購入事務については、診療材料費(投薬・注射薬以外の診療材料費や医療消耗備品費)が高い原因を更に詳細に分析する。 枝番号01 市立病院内部管理事務については、人事体制を引き続き検討していく。医療材料費の削減策については、同等品を他メーカー品へ切り替えることにより削減を進めている。
中長期的(概ね3~5年)に実施可能な改善提案	枝番号03 市立病院施設設備維持管理事業については、電気設備、機械設備の老朽化が進んでいることから改修計画を策定し、建て替えもしくは長寿命化の方針を決めていく。 中長期的な改善事項であるため、引き続き取り組んでいく。
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 市立病院の施設・設備・人員体制・経営が安定することにより、住民が安心して医療を受けることができる。	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	森下 喜子	電話番号 0494-23-0611
----------------------	-------	----------------------

基本事業コード	13070001	担当課所名	市立病院医事課
基本事業名	市立病院医事事業		
総合振興計画 の位置づけ	基本柱(章)	3	温もりと安心のある「健康のまち」
	政策	2	安心できる医療のまちづくり
	施策	2	公的医療機関の充実
			総合振興計画 91 ページ

基本事業の概要	良質な医療を効率的に提供する環境を整え、迅速な患者対応及び適切な医療に対する請求・収納を行う。
---------	---

対象	患者
意図 (対象をどのようにしたいか)	健康保持に必要な医療を安心して受けられるようにする。

基本事業指標	指標の算式	単位	25年度	評価年度(26年度)		28年度	他団体の指標(数値)
			過年度実績値	目標値	実績値	目標値	
市立病院患者数	入院外来年間延べ 受け入れ患者数	人	107,089	108,000	108,839	110,000	

◆基本事業を構成する事務事業の実績◆

枝番号	事務事業名 (★=実施計画事業)	指標			26年度	単位	事務事業評価 28年度以降の 事業の方向性 コスト 成果	重点化
		事業費(円)			目標値(上段)			
		25年度決算額	26年度決算額	27年度予算額	実績値(下段)			
01	医療情報システム維持管理事業	指標 待ち時間満足度			65	%	C	◎
		42,793,170	44,950,960	232,291,000	58.7		拡大 拡充	
02	医療費請求・収納事業	指標 医療費査定率			0.2	%	B	
		62,148,450	65,040,400	69,533,000	0.25		維持 拡充	
03		指標						
04		指標						
05		指標						
06		指標						
07		指標						
08		指標						
09		指標						
10		指標						
11		指標						
12		指標						
13		指標						
14		指標						

(参考) 最終予算額(円)		105,930,000	114,178,000
事業費の合計(円) (A)		104,941,620	109,991,360
財源内訳	国庫支出金		
	県支出金		
	地方債		180,000,000
	その他特定	16,853,000	5,000,000
	一般財源	104,941,620	93,138,360
正規職員	業務量	3.23人	3.28人
	人件費(B)	19,018,896	19,295,620
臨時職員 (事業費に含む)	業務量	0.00人	0.00人
	人件費		
事業費合計(人件費込み) (円) (A)+(B)		123,960,516	129,286,980

【重点化欄】

◎: 評価時点以降の事業の方向性(コスト・成果)の状況から、特に重点化する必要がある事業(1つ以内)

○: 重点化する必要がある事業(2つ以内)

成果の方向性	拡充	×	C, B	B, C	C
	維持	×	B	A	×
	縮小	×	C	×	×
	休廃止	D	×	×	×
	皆減 縮小   維持 拡大 コスト投入の方向性				

◆評価◆

評価の視点	左欄に掲げる評価の視点から、基本事業の意図を達成するにあたって、どのような問題点を読み取ることができるか。 基本事業の意図は適切か？また基本事業指標と目標値の設定は適切か？実績値に問題はないか？
基本事業指標の分析	この事業は地域の方々が健康保持に必要な医療を安心して受けられるようにするため、より多くの患者さんに利用していただけることを目標に掲げた。医師をはじめ病院全体の努力により、昨年度の患者数を上回り、目標値を達成することができた。内訳として、外来患者数は伸びたが、入院患者数は減少しており、増やす努力が必要である。健全な運営を継続し安心安全な医療を提供していけるよう、基本事業の意図として適切であると考えられる。
基本事業を構成する事務事業の妥当性	基本事業指標の目標値を達成するために構成した事務事業に問題点はないか？ 患者は納得のいく医療行為、迅速な対応、正確な医療費請求を望んでいる。医師が行った複雑多岐にわたる医療行為について、医療情報システムを利用し可能な限り短時間で完結させ、待つことで更なる負担とならないよう努めることは重要である。また、病院事業において医療費請求・収納業務は必須であり、適切な医療に対する費用の請求・収納を目標に努力していくことは、請求した診療報酬を全て受領できることで安定した運営を継続するため、ひいては患者に対して安全な医療を提供するために重要な業務である。
実施主体の妥当性	行政(国・県・市)・企業・市民・NPO等それぞれの実施主体は適切か？ 地域の中核となる公的病院として安定した運営のために業務を実施していくのは当然必要と考える。

↓ Action

◆改善提案◆

新規に実施する事務事業名	事業の概要
表面の「基本事業を構成する事務事業」の重点化欄で、重点化する事業として選択した理由、また上欄の新規事業を実施する効果等を記述 『医療情報システム維持管理事業』を重点化する事業として選択した理由は、医療情報システムトラブルや端末の経年劣化による業務の支障が多数報告されており、次期医療情報システムの導入を早急に進める必要があるため。	
改善のため休廃止する事務事業名	休廃止する理由
この基本事業の意図を達成するための、具体的な改善提案(改善内容、始期、終期等)	
予算を伴わず早急に実施可能な改善提案	<p>診療報酬請求事務の検証と情報の共有化による査定率の削減を図ることで、患者へ適切な医療を提供するとともに、患者負担分未収金発生防止対策のため、発生早期に土・日を含めた電話連絡を実施し、発生した未収金の早期回収を進める。また、窓口で予約受付を行う際は未収情報を確認し、収納を促す。</p> <p>診療報酬請求事務の検証と情報の共有化による査定率の削減を図ることで、患者へ適切な医療を提供するとともに、患者負担分未収金発生防止対策のため、発生早期に土・日を含めた電話連絡を実施し、発生した未収金の早期回収を進める。 審査結果通知を調査し、査定・返戻原因の分析・修正の結果を情報共有することで次月以降請求に即反映させた。電話連絡については、連絡を行った未収者の約半数の入金があった。</p>
短期的(1～2年以内)に実施可能な改善提案	<p>システムトラブルやシステム機能不足等により支障を来している業務を次期医療情報システムの導入により改善し、円滑に受付、診療、会計等の業務を行うことができるようにする。そのために、綿密な運用フロー確認、部門システムとの円滑な接続、効率的に業務を行うための画面整備等を行い、システム稼働後にスムーズな業務運用を行うことができるように進める。</p> <p>システムトラブル等により支障のある業務を次期医療情報システム導入により、円滑に業務を行うことができるようにする。そのために、ベンダーの選定、運用フロー確認、ネットワーク再構築等を行い、システム移行をスムーズに行えるように進める。 ベンダーの選定及び実施設計を行い、平成27年3月にはSEが常駐して運用等について、各ワーキンググループに分かれて打合せを開始した。また、ネットワークについて、幹線を新規に引き直し、ネットワーク機器の更新を行った。</p>
中長期的(概ね3～5年)に実施可能な改善提案	
改善により見込まれる効果、住民への影響に対するフォロー 査定率削減及び未収金の減少により、病院の安定した運営に繋がる財源を確保し、安心・安全な医療を患者へ提供する。 また、システムトラブル等による業務の支障要因を減少させ、より迅速に患者対応できるようにすることで、患者負担を軽減し、安心して医療を受けられるようにする。	

基本事業執行責任者 (担当課長名)	大野 輝尚	電話番号 0494-23-0611
----------------------	-------	----------------------